

4. 研究活動

① 共同利用・共同研究の実施件数（進行中のものも含む）

共同利用・共同研究数（単位：件）	15
うち国際的な共同利用・共同研究数	0
うち共同利用・共同研究拠点としての実施件数	0
うち国内での共同利用・共同研究数	15
うち共同利用・共同研究拠点としての実施件数	15

② 共同研究課題採択一覧

研究代表者	研究課題名（15件）	センター内共同研究者
麻田 正仁	<i>Babesia bovis</i> 感染赤血球における宿主血管内皮細胞接着機構の解明 2	河津 信一郎
小柴 琢己	哺乳動物細胞へのトキソプラズマ感染における宿主・ミトコンドリアの形態および生理機能への影響	西川 義文
高島 康弘	バングラデシュにおけるタイレリア感染牛摘発技術の開発	横山 直明
加藤 大智	新興リーシュマニア症のリザーバー調査法の確立	横山 直明
村越 ふみ	ロタウイルスの感染がもたらす仔牛のクリプトスポリジウム原虫への抵抗性と免疫応答の関係	加藤 健太郎
井口 愛子	犬バベシア症に対するニューキノロン系薬剤の有用性の検討	玄 学南
古川 敦	クリプトスポリジウムタンパク質 NPPPs を標的にした薬剤開発と評価	加藤 健太郎
二瓶 浩一	新規抗アピコンプレクサ類原虫剤の育種による生産性向上およびバイオコンバージョンによる誘導体の創成	西川 義文
正谷 達膳	トキソプラズマ虫体細胞膜の生体膜構成脂質をナノスケールレベルで可視化する	玄 学南
筏井 宏実	マラリア原虫の媒介蚊体内ステージにおけるオーシスト形成機構の解明	福本 晋也
村田 敏拓	モンゴル国薬用植物による現地家畜トリパノソーマ症・ピロプラズマ症対策	菅沼 啓輔
山岸 潤也	フタトゲチマダニゲノムがコードする遺伝子の機能予測	玄 学南
中尾 亮	<i>Spiroplasma</i> 属共生菌導入マダニを用いたマダニ共生細菌の維持機構の解明	白藤 梨可

暮地本 宙己	クリプトスポリジウム症発症メカニズム解明に向けた形態学的アプローチ	加藤 健太郎
中尾 洋一	抗トリパノソーマ活性を持つ海洋生物由来リード化合物の探索と作用メカニズム解析	菅沼 啓輔

③共同利用・共同研究の参加状況

区分	平成 30 年度 (単位: 人)								
	機関数	受入人数				延べ人数			
		外国人	若手研究者(35歳以下)	大学院生	外国人	若手研究者(35歳以下)	大学院生		
学内(法人内)	8	72 (26)	37 (12)	61 (22)	20 (9)	1138 (349)	554 (153)	940 (262)	445 (127)
国立大学	16	41 (5)	2 (0)	10 (3)	3 (0)	59 (7)	4 (0)	23 (5)	6 (0)
公立大学	1	2 (2)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	6 (6)	0 (0)
私立大学	8	15 (1)	0 (0)	5 (1)	2 (0)	79 (30)	0 (0)	63 (30)	31 (0)
大学共同利用機関法人	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
独立行政法人等公的研究機関	18	49 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	65 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
民間機関	17	69 (12)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	74 (14)	0 (0)	4 (4)	0 (0)
外国機関	13	42 (16)	42 (16)	18 (10)	2 (2)	676 (203)	676 (203)	415 (185)	2 (2)
その他	1	13 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	13 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	82	303 (65)	81 (28)	98 (40)	27 (11)	2110 (613)	1234 (356)	1451 (492)	484 (129)

※下段には女性研究者数(内数)

④学会誌、学術雑誌、国際会議等に掲載された論文数

区 分	平成 30 年度
論 文 数	76
うち国際学術誌に掲載された論文数	69

⑤出版物の発行部数

出 版 物 の 名 称	発 行 部 数
The Journal of Protozoology Research	233

⑥受賞状況

受賞者氏名	賞 名	受賞年月	受賞対象となった研究課題名等
加藤 健太郎	平成 29 年度 森永賞	H30 年 6 月	公衆衛生上重要な人獣共通感染症であるクリプトスポリジウム症の下痢発症メカニズムの超微細構造解析
劉 明明	第 9 回 日本獣医寄生虫学奨励賞	H30 年 9 月	Establishment of a stable transfection system for genetic manipulation of <i>Babesia gibsoni</i>
梅田 剛佑	第 9 回 日本獣医寄生虫学奨励賞	H30 年 9 月	トキソプラズマ感染時の Toll-like receptor 2 および CC chemokine receptor 5 の機能解析—マウス初代脳細胞のトランスクリプトームから—
曾賀 晃	岐阜大学大学院連合獣医学研究科長表彰受賞	H30 年 9 月	Studies on the Development of the High Efficacy Methods for Generating Transgenic Parasites in Rodent Malaria Model
加藤 健太郎	平成 30 年度 北海道科学技術奨励賞	H31 年 2 月	原虫病の感染メカニズムの解明と対策技術の開発

⑦研究者を対象とした研究会、シンポジウム等の実施状況

シンポジウム		講演会 セミナー		研究会 ワークショップ		その他		合計	
件数	参加人数	件数	参加人数	件数	参加人数	件数	参加人数	件数	参加人数
2	41	8	197	2	56	3	236	15	532

5. 国際交流状況

①国際シンポジウム等の主催・参加状況

(1)主催状況

区分	平成 30 年度		
主催件数	5		
主催した主な国際シンポジウム等			
	開催時期	国際シンポジウム等名称	参加人数 (うち外国人数)
1	H30.7.12 ～7.13	International Symposium on Strategies for the Control of Ticks and Tick-borne Diseases in Thailand	30 (26)
2	H30.8.10	The scientific meeting of the NRCPD & former JICA participants, PhD student and collaborators in Vietnam	21 (20)
3	H31.1.22	Joint Seminar between SHVRI and NRCPD	18 (16)
4	H31.2.22	原虫病研究センター共同研究成果報告会	25 (10)
5	H31.3.5	コーネル大学寄生虫学関連教員と原虫病研究センターならびに関連教員との共同研究会	31 (22)